

(様式2)

平成20年 自己評価書及び学校関係者評価書

札幌市立中の島中学校

1. 本年度の重点目標

「基礎・基本の確立と定着」

2. 本年度の経営方針

基本的生活習慣の確立(心優しく礼儀正しい気品ある生徒の育成)
基礎的・基本的な学力の定着(基礎学力を身につけ意欲的に学ぶ生徒の育成)

3. 自己評価結果に対する学校関係者評価

(学校全体として、よく当てはまる。または十分達成されている「A」、だいたい当てはまる。またはおおむね十分である「B」、あまり当てはまらない。または不十分である「C」、全く当てはまらない。または改善を要する「D」として評価。)

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点目標	本年度の重点目標「基礎・基本の確立と定着」は生徒の実態から見て適切である。	A	もっともな重点目標である。次年度も同じ重点目標を掲げ、成果を上げていきたい。	A	A
	本年度の経営方針(2つ)は重点目標や生徒の実態から見て適切である。	A	実態に即した方針であり、さらに継続課題として全校体制で取り組んでいきたい。	A	A
	教職員は重点目標や経営方針を生徒や保護者に伝え意識させる取組をしている。	B	学年PTAや学校説明会、全校集会や学校便りなどで、更に意識してもらおう取組を行う。	B	A
	学年会や職員室の会話の中などで、基礎・基本の確立と定着が話題になる。	C	生徒の日常的な変容について、情報を交流できる雰囲気作りが必要である。	B	B
学校関係者評価者による意見	<ul style="list-style-type: none">重点目標達成に向けて、教職員並びに保護者共々一体となって取り組んでいることが子どもたちの学校生活の中から十分に理解できる。教職員全体の共通理解や協働性を発揮する意味でも、重点目標を毎月確認し合い、生徒や保護者に対しても毅然とした姿勢を示していくべきである。子どもたちの変容への早めの対応、教職員間での情報の共有化を図るなども含めて、素晴らしい可能性のある子どもたちのために温かい目で見守りながら、具体的な改善策を図るべきである。				
学習指導	基礎的・基本的な学力の定着を図る取組が、どの教科においても意識されている。	B	各教科での取組を更に明確にし、生徒の実態を踏まえた校内研修会(授業交流)が必要。	A	A
	提出物や家庭学習の習慣化など教職員は意欲的に学ぶ生徒の育成を心がけている。	B	生徒に粘り強く働きかけるとともに、学習スキル向上のための共通した取組が必要である。	B	A
	発問、板書、説明、課題の提示などを通して、各教員が授業に工夫して取り組んでいる。	B	他教科との交流場面を増やしたり、生徒による授業評価を活用したりする工夫を行う。	A	A
	ITの活用や補充的学習、習熟度別学習などを通して基礎学力の定着を図っている。	B	3年生には学力状況調査から見てもある一定の成果が出ているが、更なる取組が必要。	B	A
学校関係者評価者による意見	<ul style="list-style-type: none">授業交流、教科交流、授業評価制度や補充的学習等、時間的エネルギー的に大変とは思いますが、教育者としての誇りをかけて取り組んでほしい。授業は教科によって子どもたちの理解度、意欲が異なるので平均した底上げを図るべき。先生方も自己研鑽に努め、さらに教材研究に磨きをかけ、生徒にとってより魅力のある授業を展開できるようにするべき。朝読書も大切だが、週に1,2回朝の運動をするなどして生徒の体力不足を補うことも検討して欲しい。				

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
生徒指導	教職員の間で、基本的な生活習慣の確立(遅刻・服装・身だしなみ等)を意識する取組が行われている。	B	学校全体として意識はされているが、より具体的な手立てを考えて取り組むべき。	B	B
	教職員はいつも生徒に温かい励ましの言葉をかけたり、過ちなどに厳しく接したりしている。	B	教職員の言動が生徒に与える影響が大きい事を理解し更に温かくも厳しい声掛けが必要。	B	A
	教職員が自ら手本となるような挨拶や言葉遣いを心がけて生徒と接している。	B	より厳しく自らを律し、更なる教職員の率先垂範意識の醸成が求められる。	B	A
	生活向上週間や2分前行動などの生徒の取組を教職員も支え、生徒に意識させている。	B	生徒が更に高い意識を持って、納得して行動できるように教職員の支援が必要である。	A	A
学校関係者評価者による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員間での共通認識を図ることや規範意識のばらつきをなくし、生徒指導に同一歩調で臨むべき。 ・子どもたちに対して時には毅然とした態度で接し、またあるときは温かさや励ましの声掛けを期待している。 ・教職員の方々が、基本的な生活習慣の確立に意欲的で自ら手本として実践されていることに敬意を表したい。 ・気になる子どもたちや遅刻の多い子どもたちには、地域・家庭・学校が一体となつての育成が望まれる。 ・教職員の方々も、服装や身だしなみに気を使い、教師と言うよりも大人として手本になるような心配りが必要である。 				
その他の分野	道徳において、各学年ともに基本的な生活習慣の確立を意識した取組がされている。	B	生徒にとって魅力ある教材の工夫とともに、心の琴線に触れる内容の充実が望まれる。	B	A
	総合的な学習の時間において、礼儀正しさや意欲的・主体的に学ぶ姿勢の育成が意識されている。	B	総合的な学習で生徒が得るものは大変大きいので、事後学習にももう少しウエイトを置く。	A	A
	係活動や委員会活動、生徒会活動など通して、基本的な生活習慣の確立を身につけさせる取組がされている。	B	一人ひとりに仕事や役割があつて、今以上に存在感が感じられる活動の工夫が必要である。	A	A
	部活動において、挨拶など礼儀を意識した生徒の育成が行われており他の生徒にも良い影響を与えている。	B	教職員自ら手本となり、さらに生徒の意識改革を進めていくことが肝要である。	B	A
	教職員は朝読書や朝自習を通して、生徒に生活習慣や学習習慣を身につけさせようと努力している。	A	更に全校体制で朝読書の充実と、本の精選、評価を推し進めていかなければならない。	A	A
	学校全体で生活だよりや全校道徳等を通して、校外での規範意識(安全など)を高める工夫がされている。	B	たよりや講演会等で生徒の意識は高まっているが更に踏み込んだ予防的な対策が必要。	A	A
	ボランティア活動や地域のイベント等に積極的に参加させ意欲的に学ばせようとする姿勢が学校としてある。	A	沢山の生徒がボランティア活動に携わっている良き伝統を今後も継続発展させていく。	A	A
給食指導や清掃指導を通して、基本的な生活習慣の確立を身につけさせる取組がされている。	B	感謝の気持ちを持つ事や協働して働くことの大切さに気づかせる指導を更に推し進める。	A	A	
学校関係者評価者による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・心の琴線に触れる道徳として、外部の方(無償)による講演会をもっと企画してもよい。 ・総合的な学習で、地域との方と関わりが持てることは有意義な事で、受け入れてくれる方々に感謝する。 ・子どもたちの安全を守るための予防的対策はいろいろあるが、地域との連携を図り、学校との協働体制で取り組んでいきたい。 ・地域住民のためにパソコン教室、家庭科室、調理室、体育館等、学校施設設備の開放を期待している。 ・朝読書は、単に好きな本を読むことから脱却し、次の段階の幾つかのテーマを掲げて取り組むようにすべき。 ・家庭力の低下や学校への過度の期待等、問題は山積していますが、宝ある子どもたちの健全な成長のために地域・家庭・学校が一体となつて取り組んでいきたい。 				